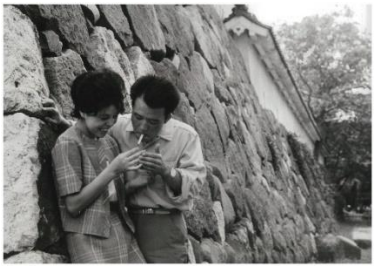
優秀作（以下、５点）

①ペンネーム：チン
　撮影場所：富山城址公園



ストーリー：
　昭和三八年、富山城址公園にて石垣を背に撮影。
　高度成長期の夢多き時代。富山藩の往時を物語る石垣は、静かな佇まいを示しているが、あれから半世紀を経た今もなお変わってはいない。
　だが、私たち二人・取り巻く社会・多くの人々は、姿形を変えている。石垣は、その姿を静かに見守っているようでもある。

滝田監督のコメント：
　確かな時代があり二人がいる。モノクロの画面からは、生きる喜びと希望の色がありありと伝わってくる。今、同じ場所でもう一度撮ってみればどうですか？
　因みにこの写真は誰が撮ったの？

②ペンネーム：なかがわ　哲ゆき
　撮影場所：とやまふくおか家族旅行村招福地蔵

ストーリー：
　祖母に依頼して他界した伯父が寄贈したお地蔵様に赤い帽子と前かけを縫ってもらった。
　その祖母も８月９日、私が寺で一撞き、町の中に長崎の平和の鐘を鳴り響かせた後、稲佐山ならぬ稲葉山の向こうの「雲の涯（はたて）」へと旅立っていった。すべて先立ってしまった子の所へ。曾孫（しこ）に囲まれ、朗らかに。

滝田監督のコメント：
　生き仏のおばあちゃんの幸せな顔を記憶に留めながらみんな老いてゆく。
　昔はこんなすてきなおじいちゃんおばあちゃんが私達を見守っていたのでした。
　家族が見えるようです。

③ペンネーム：りょさる。
　撮影場所：うなづきおんせんえき。

　ストーリー：
　　ぼくはこの時まで電車の運転しゅになりたかった。
　　ぼくがするまえは、あねとお母さんがのっていた。
　　ぼくは、できるかなと思いながらゆきがふっているせんろに近づいたトロッコでんしゃをみていた。自分のでばんまでずっと。

　滝田監督のコメント
　　白と黒とオレンジ。
　　象徴的な色のバランスは心の中に深く深く染み込み少年の個性を育んでいくのだろう。
　　雪なのに寒くないのです。

④氏名：平井　寅
　撮影場所：東富山駅前

　ストーリー：
　　夏の終わりを告げる帰宅時の駅前の夕焼け。旧ＪＲの北陸本線の駅で、この東富山駅だけが西口（夕焼け）を向いている。夕方にこの改札を出ると目の前に夕焼け夕日が飛び込んでくる。不思議と昭和から変わらない風景。タイムスリップして子供時代に…。
　　そこには今と変わらない暖かい家族の姿があった。

　滝田監督のコメント：
　　変わらぬ空の広さと町の匂い。最も富山的でありながら日本的。人の数だけドラマがあり、陽は沈み、また昇る。

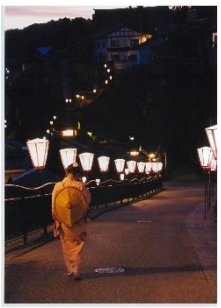
⑤氏名：大原　菜月
　撮影場所：雨晴海岸

ストーリー：
　湊町に住む６歳の少年、奏は中々明けない梅雨にうんざりしていた。「はやく夏が来てくれないかな」と願う少年は夏が大好きで、毎年待ちわびていた。ある朝、起きてカーテンを勢いよく開けると、すがすがしい青色の空が広がっていた。奏は勢いよく外に飛び出し、さわやかな風のように速く、海へと駆け出した。

滝田監督のコメント
　私達はＯＮを目にすることを全てだと思いがちだが、ＯＦＦのさりげない一瞬に真実があることを忘れてはいけない。
　誰が撮りましたか？

佳作（以下、５点）

①氏名：上野　敬二
　撮影場所：富山市八尾町



　ストーリー：
　　越中八尾の９月４日の朝焼け。
　　おわら最終日の夜中、カメラを提げ、町中を歩いた朝の禅寺坂。祭りを引き継ぎ、より良い踊りを求める真摯な若者たちの姿。坂の町はぼんぼりのもと、３日３晩踊り明かされた。今年も素晴らしいおわらだったな～。最後は駅の見送りおわらで締めよう。

　滝田監督のコメント：
　　おわらは絵になります。
　　見るも踊るも。

②ペンネーム：天神
　撮影場所：立山

　ストーリー：
　　僕は体力がない…なので立山に登ることにした。
　　立山は初めは楽だったが途中岩が沢山できて足場が悪く怖かった。休憩を取りながら少しずつ登っていった。そして頑張って頂上まで登った。そして頂上で食べたおにぎりは絶品だった。雄山神社で参拝して下山した。
　　後日苦手だったランニングがいつもより多くはしれた。

　滝田監督のコメント：
　　立山登山は富山県民の共通体験。私は登山中に初めて自分は高所恐怖症であることを知る。（小学６年生）
　　恥ずかしかった事を思い出しました。

③ペンネーム：華奈
　撮影場所：富山市　松川

ストーリー：
　「ここ富山市では松川沿いの桜が満開を迎えています。」テレビの中継画面に映る春の風景が、10 年前の記憶と感情を呼び起こした。入社３年目の冬、私は急な転勤で富山行きを命じられた。縁も所縁もない富山での生活は、松川沿いの小さなアパートから始まった。

滝田監督のコメント：
　日本人と桜、毎年健気にも満開の花を咲かせて散らせる桜の樹にも寿命があることを知り、私もあと何回桜を見ることができるのか。
　いとおしい。

④氏名：栗須　大貴
　撮影場所：高岡市伏木

ストーリー：
　赴任して２年目の私は、受け持っていたとある生徒が授業中いつも眠そうにしているのを気にかけていた。富山県は全国でも有数の獅子舞が盛んな土地。「今夜、獅子舞があるらしい」とのうわさを聞いて、見に行くことにした。そこには、教室では見せたこともない真剣な表情で、活き活きと獅子殺しを演じるあの生徒の姿があった。

滝田監督のコメント：；
　富山で生きている自分を実感しているのは表情でわかる。
　伝統は心の繋がり、絆をひき継ぐものでもある。

⑤氏名：高田　瑞紗
撮影場所：富山県下新川郡朝日町黒岩山

ストーリー：
静寂に生い茂る木々。ろうそくに灯る炎が母の最期を表すように遺憾に思える。
祖父の寂しげな表情の奥には、自分より早く永眠した母への悔しさがにじみ出ていた。
母の残像がはっきりと残った山道を静かに渡った。母の人生は儚い初恋のようだった。
私はこれから先、幾度となく墓の前で手を合わせる祖父母の姿を思い出すだろう。
真っ青な空へ母想う。
「また会う日まで…」

滝田監督のコメント：
フィクションでは導く事のできない奥深い眼指、後ろ姿。
見つめる蝋燭の先にある永遠の生が人を生かす。